

バージョン 3-9-2 での変更点 (主にデバッグ機能の拡充)

■ showmsg コマンド

showMsg コマンドと似た機能を持ちますが、以下の点が異なります。

- (1) IP アドレス [オプション] を指定して表示させます。
- (2) コマンド/レスポンス型、イベント通知型の両方に使用できます。
- (3) オムロン ETN01 の場合にも 1 台ごとに表示させることができます。
- (4) すべてが小文字で打ちやすいです。

一般的なフォーマットは、

```
iocsh> showmsg ip_addr, option
```

で、option (意味は後述) は省略可能です。option を省略した場合は、

例えば、

```
iocsh> showmsg 192.168.210.7
```

のように打ちます。/etc/hosts にホスト名が登録されていれば、

```
iocsh> showmsg hostname
```

とすることもできます。

option の値として、例えば 1 を指定する場合は、

```
iocsh> showmsg 192.168.210.7, 1
```

とします。option を略した場合は 0 を指定したのと同じ、つまり、

```
iocsh> showmsg 192.168.210.7, 0
```

と同じです。

オプションの意味

- 0: Command/response, Binary
 - 1: Command/response, Ascii
 - 2: Event notification, Binary
 - 3: Event notification, Ascii
-

例えばオムロンの場合は 0 (省略可)、N-DIM の場合はメッセージを
印字させたい通信に応じて 1 か 3 のいずれかを指定すること (必須)

になります。

引数なしで単に

```
iocsh> showmsg
```

と打つと、上の情報を含んだ使用法が印字されます (help 機能)。

■ stopmsg コマンド

showMsg に対する stopMsg に相当するものですが、特定の I/O を対象にするのではなく、すべての印字をクリアする点が異なります。

メッセージを消すとき (ばらばらと印字されているとき) はコマンドが打ちにくいので、このような仕様が便利だと思います。

■ showio コマンド

こちらはレコード名を指定して I/O を確認するために使うコマンドです。

```
iocsh> showio some:record:name
```

のように使います。

showMsg 系とは異なり、I/O メッセージの内容は表示されませんが、I/O に伴い、

```
Sending message for some:record:name ...
```

```
Got message for some:record:name ...
```

のようなメッセージが印字され、指定されたレコードに関わる I/O が実行されているか否かが分かります。このコマンドも、コマンド/レスポンス型、イベント通知型のどちらにも使えます。

■ stopio

Showio の結果として生じた全ての印字を停止します。

■ peerShowAll と serverShowAll の改修

IP アドレスとポート番号、TCP/UDP の区別を印字するようにしました。

■ post_event 機能の改修

